

第2回長浜市未来創造会議 会議録

I 日 時 令和5年8月3日（木曜日）10時00分～12時00分

II 場 所 長浜市役所本庁3階 特別会議室（長浜市八幡東町632番地）

III 出席者 鵜飼 修委員（座長）

岩崎 博論委員 桐畑 裕子委員 北川 富美子委員

松井 善典委員 磯崎 真一委員 小出 篤委員

中川 香奈子委員 船崎 桜委員

【事務局】 未来創造部 中嶋部長、森次長

政策デザイン課 柴田課長、服部課長代理、山崎係長、饗場副参事、
伊藤主査、野村主査

デジタル行政推進局デジタル行政推進課 宮川局長、横田課長、今井係長

【ゲスト】 市内高校生1名

IV 内 容

1 開 会

事 務 局 開会を宣言

2 部長あいさつ

部 長 【部長挨拶】

3 議 事

(1) (仮称) デジタル田園都市国家構想の実現に向けた

長浜市まち・ひと・しごと創生総合戦略に掲載する施策案について

事 務 局 資料1に基づき、市総合戦略に掲載する施策案を説明。

座 長 ・ 施策案については、まだ修正が可能ということ。

・ 委員の皆さまにおいて、重点的に取り組むべきと感じるところや過不足と感じるところについて、意見をいただきたい。

委 員 ・ 若者にとってまちづくりセンターはこれまで活用されてきた方々との関係もあり、ハードルが高い。

・ 市でも北部に行けばいくほど、文化芸術・クリエイションの場所がなくなっている。

・ 市内ホールの閉館も増えており、アーティスト・イン・レジデンスやクリエイション、宿泊可能な施設等、若者の活躍の場づくりを進めて

- ほしい。
- ・田根地域でアーティスト・イン・レジデンスをはじめられた方がおられる。
 - ・学校でアウトリーチや地域との連携、文化芸術を活かし、産業化できるような仕組みがあればいいと感じる。
- 座長
- ・新潟県の「大地の芸術祭」のようになれば魅力的であり、見に来る観光客がつけば産業化にもなる。
 - ・アーティスト・イン・レジデンスという文言を総合戦略に記載してはどうか。
- 事務局
- ・詳細に記載しすぎると、それ以上の取組について支援が受けにくくなる。手法として「アーティスト・イン・レジデンス等」という文言での記載を検討する。
- 委員
- ・長浜は「芸術」に対する理解が少なく、応援してもらえない、お金をかけてもらえないことからボランティアが主となっている。
 - ・地域の人々の芸術に対する認識は「無料なら見に行く」という程度の認識である。
 - ・ヨーロッパでは、街をあげてアーティストを応援している所もあるため、そういったまちづくりも可能と思う。
- 座長
- ・“アートをいかしたまちづくり”は北部に拠点をつくれれば定着するよう感じる。
 - ・アートは地域の「価値を発見する」ことにもつながると感じる。
- 委員
- ・地方創生で有名な神山町も最初の入り口は「アート」であり、スタートから20年近くの歳月をかけてやってこられた。
 - ・アートはお金にならない、食べていけないという観点もあるが、それを支援する個人や事業体とのつながりを作ることができれば可能性はある。
- 座長
- ・鹿児島にも事例があって、まちづくりは文化づくりということを言われた先生もおられる。
- 委員
- ・施策 [1-3] について、人材確保には住宅の点が欠かせないと感じる。人材確保に併せて、不動産屋に行く以外の方法で空き家活用などの住まいの選択肢を提供することで、経済支援にもなるし定住支援に繋がるのではないか。
 - ・施策 [2-1] 地域資源について、まずは若者目線で地域資源を発見すべきではないか。新幹線駅として、米原駅と敦賀駅が玄関口となると思われる。その際の動線を想定すべきと感じる。
 - ・野瀬に「谷坂隧道」というトンネルがある。こういった「トンネル」や「道路」の意匠性を確認するようなイベントがあってもいい。
 - ・柱立ての③、妊娠出産などの支援について、滋賀医大の学生7名に周

産期医療や重層支援の体制をテーマにフィールドワークを実施いただいた。その結果、健康リスクが高い方への支援は充実しているが、「健康な妊婦への支援」が不足していることが判明した。健康な妊婦さんに対し生まれる前からの支援があればと感じる。

事務局 ・ 定住の支援に関して、空き家活用の関係は計画等に記載しているが、これ以外についても検討研究を進める。不動産の紹介という観点では、市街化区域はまだまだ住宅開発がされており、公が入りにくい状況もある。

・ 子育てについては重要な論点であり、本年度からこども家庭支援センターを設置し切れ目ない相談支援機能を設置したが、現状で全て十分な環境が作られているわけではないと認識している。子育ての支援として、例えば母子手帳のDX化など時代の流れに即した具体的な施策についても検討を進めている。

座長 ・ 施策 [2-1] に関する地域資源の捉え方については何かあるか。

事務局 ・ 地域資源を発見するのに、特に若い方の目線からというのが大事と考えている。今年度から、こども若者ボイスという、直接声を聞く仕組みを始めており、いただいた意見をどう活かしていくかがポイントになってくる。

座長 ・ 地域の価値を捉えなおし、発見・創造するという話かと思うので、その点も取り組みを検討してほしい。

委員 ・ 農業に関連して定住人口の増加を考えれば、農業を仕事とする人を増やす必要があるが、いきなりの営農は難しいため、1年を通して体験耕作ができるような仕組みがあればいいと考える。

・ 滋賀県においても営農トレーニングハウスの話があがっているが、ハウスなどの設備は大変高価であるため、設備投資が少なく済む畑などを設けて、栽培技術の普及や販売方法を学んでもらえるようにすれば、農業経営者や雇用者が増えるのではないか。

・ スマート農業は若者にとって魅力だが、ドローンやロボットトラクターなどの大型機械を扱うには高度な技術が必要となる。機械を買ってもオペレーターがいないのでは意味がないので、これから主戦力となる50代の人たちが機械を使えるようにする取組が必要と思う。

・ また、農業の省力化には、スマート農業に関する補助だけでなく小さな運搬車などが効果的であり、購入補助金などを設けてもらえると農業者は助かるだろう。

事務局 ・ 未経験者が営農を始めることはハードルが高いことは理解する。

・ 現状として、市では地域商社機能、道の駅との連携など、農産物の出荷支援や商品開発支援を強めていく取組を進めている。

・ スマート農業に関しては、省力化を図るため支援を進めているが、補

助件数も当初の見込み件数までいっておらず、ニーズを再度捉えていく必要があると考えている。今後、担当課と連携して検討していきたい。

- ・農業のトレーニング、教育という視点について、県と連携して考える必要がある。
- 座長 ・農業との携わり方はバリエーションがあり、様々なパターンに対する支援が必要になってくる。
- 事務局 ・今後のヒントをいただければと思うが、若い人が農林水産業に一番魅力を感じるポイントはなにか教えてほしい。
- 委員 ・個人的な感覚だが、農業の魅力は、作物を自分で一から育て、売った相手が喜ぶ姿が見えることだと感じる。お客さんに褒められるという体験も魅力の一つと感じる。
- 座長 ・若いゲストの意見も聞いておきたい。
- ゲスト ・やったことがないため、体験してみたいという思いはある。
- ・農業は大変そうなイメージが強いが、体験してみたらイメージは変わるかもしれない。
- 座長 ・体験が魅力ということや、体験してみないとわからないということであれば、各世代で体験できる機会を設けることも一つの手法である。
- 委員 ・農業をやっている知人が農業をはじめた理由は、「安心して食べられるよう生産者がわかるものを作りたい、こだわったものを作りたい」と言っていた。また、「課題に対し、試行錯誤していくなかで自分も成長でき、いいものが作れるようになってくる」と聞き、私もそこで初めて「農業っていいな」と感じた。
- ・こういった話を聞く繋がりや、一生懸命やっておられる方と若者の出会いが必要なのだろうと思う。身近に様々なロールモデルがあると、そのモデルが仕事の選択肢になるので、出会いの場を作っていくことが重要なのではないかと考える。
- 座長 ・企業であれば就活フェアのような機会があるが、農業においてもそういった機会を作るのが重要かもしれない。
- 委員 ・自社の事業で農業と関わることもあり、切り分けやピンチ作業などの簡単な農作業を短時間就労としてお母さん方にマッチングしたことがある。1から100までやろうとすると難しいかもしれないが、一部分作業であれば負担も少なく、“農業っていいな”という意識の醸成や体験ができるかもしれない。
- ・施策 [1-3] 人材確保について、世の中に企業や仕事は多種多様あるが、私たちは自分の認識範囲や資格に関わることしか基本的にわからない。再就職のときも自分で自分の可能性を狭めているように思う。先ほどの農業同様、体験してみたら新しい認識ができるので、そういう

仕組みや情報発信があればいいと感じる。

・また、「個人の事情やライフスタイルに応じた柔軟な働き方実現に向けた支援」という施策に加えて、「働きづらさを抱える方へのサポート」という文言を入れてほしい。

・施策 [3-1] 女性、母親の就職において、家庭との両立がむずかしいという話を聞く。仕事と家庭の両立には、家庭という枠組みがしっかり機能している必要があるが、セミナーの参加者は女性が多く男性が少ない。男性にもっと参加いただけるようなアプローチが必要と感じる。

・施策 [3-4] について、虎姫高校の学生たちがピンクマスクの活動の一環で、地域の誰もが安心して過ごせる居場所づくりを企画された。その際、地域の会社と連携して一緒に取り組まれたのだが、企業や地域と関わって理解を深めるような幼少期、小中学生でのエピソードがあると大人になって帰ってくるきっかけになると思う。このような機会を創出できるような施策があればいいと感じる。

・施策 [4-1] の具体的な事業案のところで「(2) 居場所と役割のあるコミュニティづくり」とある。居場所づくりに加えて、「仕事」の要素があると、より社会とのつながりができるのではないか。

事務局 ・人材確保の点で、働きづらさを感じる人にとっては、「仕事」や「いきがい」という面も重要な要素である。雇用創造協議会において取り組みが進められており、連携して進めていければと考えている。

・仕事と育児の両立については、父親の存在が非常に大切であると認識している。市の役割としては、啓発を進めることになるが幅広く進めていきたいと考えている。

・地域や地域企業との連携について、これまで高校生との取組はやってきているが、より若い世代との取組も検討していきたい。

ゲスト ・地域における交流として、小学生のとき、コミュニティセンターで同年代があつまって宿泊するイベントがあった。同年代で協力する機会が設けられ、楽しかった思い出がある。そういった機会を市内でもっと設けられればいいと思う。

座長 ・長浜でキッズニアのような就労体験施設は作れないのか。就職する子を増やしたいのであれば、そういった投資も必要である。

委員 ・柱立て①について、「地域におけるDX」が重要と考える。地元企業、地場産業がデジタル化に乗り遅れてしまっている現状があり、いくら地域の雇用があっても経営側がデジタルシフトされていないと、就職する側は将来への不安を感じてしまう。このため、人材の確保において、地域のデジタルシフトは重要な要素である。

・柱立て②について、東京に住んでいる目線から、長浜といえば「黒壁」であり、黒壁を目的に長浜を目指す。合併で大きくなった長浜市を考

えたときに「北部へ行く理由」が現状あまり無いことが課題だと感じている。北部地域にも資源となるものは各所に存在しているが、目玉となるものがないと感じる。“北部のこの場所に人を集める”というブランディングが必要であり、それが人の流れ、回遊に繋がる。

- ・柱立て③について、教育データベースの作成が重要と考えている。これは、子どもの学力だけでなく生活についてもデータベース化することである。子どもは選挙権もなく、何をやるにしても親のフィルターが必ずかかってしまい、本音が行政に届かない。よって、データからこどもの課題を洗い出す必要がある。
 - ・資料の最後に「EBPM」とあるが、簡単に言えば、データに基づいて政策を作っていくという考えであり、教育の場でも EBPM に取り組んでいくという動きが出ている。
 - ・柱立て④について、空き家についてデータの活用が必要だと考える。多くの自治体では「通報」により空き家が見えるが、通報する段階の空き家は管理不全のものがほとんどなので、活用が難しい状態である。いかに早く空き家の判定を行い活用に向けるかが重要になってくるため、市で保有している固定資産税と上下水道料金のデータを活用するなどして空き家の特定を進めることが、空き家の活用には必要である。
- 事務局
- ・地元企業や地場産業などの地域 DX については非常に重要な視点と考え、検討していきたいと思う。
 - ・空き家のデータ活用については、担当する住宅課も重要と捉えており、固定資産と水道のデータも大切だが、「空き家活用の意思があるかどうか」も重要であり調査が必要と考えている。
- 座長
- ・委員の話で、インパクトのある拠点を北部に、という話があったが、やるならば年間300万人が訪れるような拠点を戦略的に作っていかなければならない。イメージとしては近江八幡市のラコリーナのようなもの。
 - ・空き家の活用については、周知されないと情報が集まらないため活用組織が見えることが重要である。
- 委員
- ・長浜市のホームページに載っていたスノーボールサンプリング調査や中高生対象アンケートなど、こども若者世代の声を集める取組はいいことだと感じる。
 - ・地域の価値の再発見ということについて、畑などの土いじりは重要な視点と思う。
 - ・施策 [4-2] について、長浜の土地柄として一度手を挙げるとずっと引っ張り出されてしまうようになる。もう少しスポット的に活躍できる機会が作れるのであれば、普段家におられる方も出てきやすいのではないか。

- ・施策 [3-6] について、教育現場の ICT 推進、学校ごとに大きな差があり、もっと市内で統一性が必要なのではないかと思う。子どもからはタブレット教育が嫌という声も聞いている。
 - ・施策 [3-3] について、外国籍の方の相談窓口の周知などが足りないと感じる。
 - ・人口が減っている地域においては、地域の草刈りが大きな負担となっている。取り扱いが簡単な手押しの草刈り機が 20 万円ほどで購入できるため、こういった機械の導入に補助がいただければと思う。
- 事務局
- ・草刈りについて、補助を設けることは難しいかもしれないが、過疎における課題であると認識している。
 - ・学校 ICT は導入して間もないこともあり、教える側、学ぶ側、両方の課題がある。教育委員会において取り組みが進められているが、タブレットを使いたいと思ってもらえるような教育環境の整備を進めていけたらと思う。
- 座長
- ・若いゲストの意見も聞いておきたい。
- ゲスト
- ・タブレットを使うことについて、学習アプリは確かに苦痛だった記憶がある。自分としては紙の方がいい。頭に入っていると感じる。
- 委員
- ・医学部は全員タブレットで講義を受けていて、紙のノートはほぼ使っていない。
 - ・タブレットをどう使うかが重要である。
- 委員
- ・ハードウェアの問題ではなく、ソフトウェアの問題なのだと思う。
 - ・教え方、教材をどう磨いていくかということが重要な視点だと感じる。
- 座長
- ・それでは次の委員さん、ご意見を。
- 委員
- ・施策 [1-2] について、「情報発信」とあるが、その受け皿がないのではないか。まずはそれをつくるところから始めないといけない。関連して、北部地域では自由に Wi-Fi やコンセントを使用できるところが高月のマクドナルドしかない。北部地域にワーケーションできる場があれば、それが受け皿になる。
 - ・施策 [2-1] について、手段として情報発信力の強化とあるが、無いものを情報発信することはできない。先ほど同様に作るのが先である。箱モノを作るというわけではないが、ツアーなどソフト的なものも含めて考えていく必要がある。
 - ・施策 [3-1] について、女性が働きやすい地域としてブランド化、多様な働き方とあるが、文章では「女性」が前提の書き方になってしまっているので、書き方を変えた方がいい。
 - ・仕事と育児の両立について、先ほど事務局から啓発くらいしかできないかもしれないという話があった。「男性育休、何%達成で〇〇」という目標値と報酬を行政が用意すれば、企業は参画してくれるのではな

いか。

- ・施策 [3-4] について、地域医療体制の維持の点で、周産期医療の「維持」でなく、ぜひ「強化」を目指していただきたい。
 - ・施策 [4-2] について、市民協働、市民活動の人をサポートして持続可能な取組とするために、情報が集まるプラットフォームを市で整備してはどうかと思う。
 - ・全体的な前提として、国の交付金を受けるためにデジタル活用が前提なのか、教えていただきたい。
- 事務局
- ・交付金について、デジタルの活用は必須ではない。総合戦略の4つの柱立てに適合し、地域課題解決に資するものに活用を検討していく。解決策、手法としてデジタル技術の活用を進めていく方針と認識いただきたい。
- 座長
- ゲスト
- ・それでは、ゲストからも全体的な意見を聞いていきたい。
 - ・情報発信について、長浜市のYouTubeを観たときに広告の時間が長くて観るのをやめた覚えがある。もう少し見やすいようにできれば周知が図れるのではないかと思う。
 - ・体験活動の小教室などに参加したいと思っても南部（草津・大津）ばかりで開催されていて、長浜ではそういったものがない。地域で多様な学習や体験ができる場所があれば子育てや教育としていいと思う。
 - ・今回のような市の会議を聞く機会をいただけてよかった。内容もとても面白く、気軽に、簡単に傍聴できる機会がもっとあればいいと思う。
- 座長
- 委員
- ・それでは、最後に委員から総括を。
 - ・総合戦略は施策を書くと補助金をもらえる可能性があることから、市民へのメッセージとともに国へのメッセージでもある。
 - ・デジタル田園都市国家構想は自民党の政策であり、自民党としての施策の反省が反映されていて、今まで東京集中しすぎたことが地方創生ということに染み出している。地域発イノベーションを起こす一つの中心地としての「長浜」というものが戦略から見えてくればいいと思う。
 - ・地方創生の取組においては、産業、公共どちらかを優先するのではなく、二つの両輪が必要なのだと感じる。
 - ・皆さんの話を総合的にコメントすると、「やりたい人がやりたいことを始められる機会を作る」ということを随所で言われていた。文化・農業、教育、産業など、その「入り口をどう多様にするか」ということだと思う。日本社会はこれまで変化してこなかったが、令和になっていろいろな変化が起き始めている。そのときに、“変わりたい、始めたい”と考えている人の入り口支援をするということを委員の皆さん指摘していたものと思う。

- ・ 入り口の多様性に加えて、出口としてステップアップする仕組みを作ることも必要となる。
- ・ 市の仕事はそれぞれ役割分担があり、農業系なら農業系部署、商業系なら商業系部署というように、どうしても分断しがちである。この会議体は、その組織を繋げて、多様な入り口と出口を繋げる役割を持っている。それが長浜ならではの地域発イノベーションの形かもしれない。
- ・ 公共も産業も地域発イノベーションの一つの震源地になればと感じる。

- 座 長
- ・ イノベーションは新しいものではなく、新結合するもの。
 - ・ 様々な取組や施策を、全体的に見て組み合わせていくことで効果的なものを作っていくことが重要である。

4 その他

- 事 務 局
- ・ 今後のスケジュール等について説明

5 閉会

- 事 務 局
- 柴田課長より閉会の挨拶

以上